

Past Present Future

教えて 柔整業界の今昔

近藤昌之 × 田尻 賢

近藤先生も、激変する柔道整復業界にあって業界の改革に
挑み続けておられます。これからの展望を、過去の事例と
ともに伺いました。



株式会社シー・エム・シー
代表取締役社長 近藤昌之

柔道整復師、介護支援専門員。1952年東京都生まれ。幼少より武道家を目指す。大塚流合気柔術伝承者。大学卒業後、東京医療専門学校にて、整骨医学、東洋医学を学ぶ。82年、千葉県船橋市に整骨院を開業。91年、株式会社シー・エム・シーを設立。

“整骨の技術は 万病にアプローチでき、 副作用がないという 大きな可能性を持っている”

ほねつぎから
「院」ブランドへ

田尻 柔道整復業界の今昔を知るにあたって、30年間業界の革新を続けてきた近藤先生にお話を伺いたいと思っていました。これまでの業界の動きを教えてくださいながら、柔整業界の未来についてのお考えをお聞かせください。

近藤 確かに過去に学ぶことは多いですね。柔道整復師業界は、過去にも大きな革新をしてきました。

田尻 最初に大きく変化、成長したのはいつ頃でしょうか？

近藤 昭和30〜40年頃でしょう。それまでは町に「軒」「ほねつぎ」が

あり、地域の方々の怪我を治していました。そこから、医療の片輪を担うという自負を込めて「整骨院」と名乗り始めたのがその頃です。

近藤 そのからの30〜40年間、市場は大きくなりましたが、我々は大した努力もせず甘んじていたと思います。これからはそうはいきません。努力がものを言うという点で、真の業界人が出てくるでしょうね。

今求められる
「整骨ミクス」とは

田尻 「食える」業界に復活するために、近藤先生が温めている秘策があるとか。

近藤 アベノミクスならぬ「整骨ミクス」を考えたいです。個人や企業が金儲けのために働くのではなく、いまは業界全体で研究す

に対しての心構え、医者を目指す学生が学ぶようなことが、柔整業界には欠けています。

近藤 そうですね。柔整師のためというよりも、国民医療の為に必要なことです。そういう啓蒙活動をしていかなければなりませんね。

柔整師は未来を
変える「先生」

田尻 不正請求問題などネガティブなニュースが、図らずも業界を再びまとめる一因になりました。

近藤 おいしいところだけ獲る時代は終わったといつことでしょう。医療保障審議会には、柔整業界から代表を送りこんで検討会を行っています。中長期的には制度も改訂していくでしょう。私も審議委員会に参加しましたが、メディアを前に、公の前で話す機会を得たというのは非常に大きい。これまで国民への広報活動はほぼしてこなかったですから。

田尻 業界内での啓蒙の必要性もおっしゃっています。

近藤 私は治療家と言わず、「医療家」と呼んでいます。つまり、我々の仕事は、患者さんの未来を作るのだと思うのです。診断は過去の整理ですね。治療は現状を変えること。そうすると未来を変えることができる。未来を変えら

れる人は、「先生」と呼ばれます。我々ももっとその自負を持たねばならない。医療人として、人間のスキル、知識、技術を上げて、患者さんからの評価を得なくては、田尻 なるほど。

近藤 だからこそ勉強しなければならぬ。権利と義務は表裏一体。その努力が報われるほどの仕事です。また「半径500メートルの有名人」として医療面だけではない貢献を地域にしてほしい。できれば地域でひとり、柔整師から区会議員、市会議員を出したいですね。政治とか金儲けではなく、自分の町を良くする仕事をしたい。

田尻 地域をよくする、という視点で多面的にコミットするのですね。

近藤 柔道整復師業界は、未来を作る可能性はいくつもあると私は考えております。「整骨医学を医療のスタンダードに」というのは当社の目指すところでもありますが、そういうパフォーマーを出せるかは、我々の力次第、頑張りです。

田尻 当社も応援させていただきます。本日はありがとうございました。



株式会社ファーストサービス
代表取締役 田尻 賢

る制度が求められている時期。整骨の技術は万病にアプローチでき、副作用がないという大きな可能性を持っている。ただ、我々がそれをうまく開拓できていない。柔道整復師法の見直しも含め、改めて自分たちが、例えば予防医療や介護分野などで何ができるか、発信していくことが大切だと思います。

田尻 「発信」とは、国民全体だけでなく、業界内にも発信力を強めるという意味ですね。

近藤 はい。発信することで、末端の整骨院まで情報を届け、業界のスタンダードを作りたいですね。これから海外で活躍する人のためにも、整骨モデルをしっかり作る必要があります。「長寿国ニッポン」の身体づくりのノウハウを、パッケージングして世界に発信できるいいチャンスですから。

田尻 そうした業界全体の「意識の変革」は、具体的にはどのような進め方でいこうとお考えですか？

近藤 ひとつは広報活動です。現在は業界雑誌がないのですが、柔整師ストーリーの漫画などができるといいですね。あとは患者様からの信頼を得るための教育が必要でしょう。業界倫理、保険取り扱い業務、医療倫理、患者

“我々の仕事は、 患者さんの未来をつくること。 未来をかえられる人が 「先生」と呼ばれます。”